



● かえり道

一番好きな旅は

「我が家への帰り道」です。

作詞家・タレント 永六輔

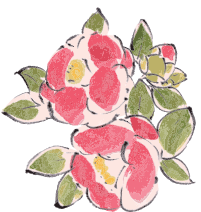
（人生の大半を旅して過ごした永六輔さん、人から一番好きな旅はと聞かれ、「我が家への帰り道」と答えました。永さんは浄土真宗のお寺の二男でした。）

※人生は旅のようなものだと思います。

※わたしも六十八年の旅を続けてきましたが、旅に終わりのあることをしばし思うことが多くなりました。

※いろいろな人に出会い、さまざまな体験をしました。が、やはり一番の思い出は、親鸞さまに出会えたこと、浄土真宗という教えに出会えたこと、よろこびです。

※終わりゆく旅が浄土への帰り道と教えられたよろこびです。



● 家のなか

かたつむり どこで死んでも 家の中

※正信偈の「撰取心光常照護」の意味を、こう読んだ和上わじょうがありました。今が救いのど真ん中、と教えられたよろこびもあります。

● さそい道

一人 ダマリの道 ナガイ

二人 話しの道 ミジカイ

画家 安野光雅

※昔、ラジオで聞いた話です。語ったのは画家の安野あんのみつまさ光雅さんでした。その頃は田舎の小学校の臨時教員だったとか…。赴任先ふにんさきでのことだったか、故郷の島根県の津和野のことだったのか…はつきりとは覚えていないのですが、こんな話でした。

「あのね、敗戦後間もない頃でね、あの頃田舎のバス停、なかなか時刻表どおりバスが来ないのよ。道ばたの土埃つちぼこりの中を待つても待つてもバスが来やしない…。うんざりしながらバスのやってくる道を眺めてたら、一人のおばあさんが「お兄さん、一人ダマリの道 ナガイ 二人 話しの道 ミジカイ」と話しかけてきてね。たどたどしい日本語で、おそらく朝鮮の人だよ。待ってないで一緒に次のバス停まで歩こう…って言うんだね。たどたどしい日本語なのに今でも忘れられないのよね。深い人生訓のような気がしてね。

※人生の帰り道、お寺の法座で、ご法義ほうぎばなしの花を咲かせながらご一緒に歩きます。んか…のお誘い道です。

（平成二十九年 御正忌報恩講 前住職）